

## 人間の安全保障(Human Security ヒューマン・セキュリティ)の促進を考える

- マリー・ルイズさんのお話をお聞きして -

開倫塾

塾長 林 明夫

## 1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

いよいよ6月に入り、すがすがしい毎日が続き喜んでいます。先月の15日に、私が会長を務める開倫ユネスコ協会で、栃木県庁の前にある栃木県総合文化センターというすばらしい建物をお借りして、「人間の安全保障(Human Security)に関するフォーラム」を開催させていただきました。

## 2. 人間の安全保障(Human Security ヒューマン・セキュリティ)の促進を考える - マリー・ルイズさんのお話をお聞きして -

(1)「安全保障」には、「国の安全保障」と「人間の安全保障」の2つがあります。「国の安全保障」は非常に大事です。国というものはきちんと守らなければならないからです。それと同時に、一人ひとりの人間に視点を当てて安全を保障することも考えなければなりません。日本政府も、政府開発援助の基本を「人間の安全保障」にするということで小淵さんや小泉さんが一所懸命やられて、それを今安倍首相が引き継いでいます。

(2)開倫ユネスコ協会は、「人間の安全保障」の促進を基本理念に、2001年に設立されました。以来毎年、「人間の安全保障」とは何かということについて勉強させていただいています。

(3)「人間の安全保障」には、中身が2つあります。1つは、紛争が起こり状況の非常に大変な場所で生命・生存を保護することです。これは、「保護(protect プロテクト)」という考え方です。もう1つは、国や地域がいくらかずつ安定してきた段階では、個々人が力をつけて自分の生活をする・地域の生活や経済を支えるという考え方です。これは、「能力強化(empowerment インプワーマント)」という考え方になります。「保護」と「能力強化」、この2つが人間の安全保障の中心となる考え方です。

(4)今回は、内戦により非常に苦しんだルワンダ出身のマリー・ルイズさんをお招きし、ルワンダの状況と今後どのような国づくりを行ったらよいかについて、「人間の安全保障」の観点からお話させていただきました。マリーさんは、ルワンダで非常に激しい内戦が起こっている頃にとっても厳しい生活をされ、現在は福島県で暮らしていらっしゃる方です。

(5) ルワンダという国については、皆さんも耳にしたことがあると思います。アフリカ諸国の1つで、広さは四国の1.4倍くらい、人口は約903万人です。首都はキガリで、使用言語はルワンダ語、フランス語、英語、スワヒリ語などです。コーヒー豆や紅茶の葉などが盛んに栽培されています。気候は、1日の温度差が激しく、朝は7 くらいですが日中は25 くらいまで上がります。1日のうちに四季(春夏秋冬)があると言われるほどです。赤道の真下に位置していますが、過ごしやすいそうです。

(6) ただ、皆さんもすでにご存じだと思いますが、内戦が激しく一時は大虐殺などもありました。その当時は、マリーさんも非常に大変な思いをしながら生活していたそうです。今は、いろいろな国が監視団を送り込んで目を光らせているので、安定しています。

マリーさんは、爆弾の下をくぐり抜けて難民キャンプに行きましたが、親を100%信じている空腹の子どもに何か食べさせてあげたいと思って食べ物がないという状況で、子どもを失う怖さやつらさを体験なさったそうです。助かったのは、小麦粉が売られていたのでそれでドーナツを作って売り、お金を得て子どもの生活に役立てられたからだそうです。これは、教育のおかげであるとのことでした。

(7) マリーさんは日本に留学した経験があり、日本語を話すことができましたので、日本からの医療団の通訳を頼まれ、それで給金を得ることができました。日本人医師の通訳として働き、給料をもらい、それによって生きることができたのです。日本で日本語教育を受けられたおかげで、厳しい状況の中でも生活することができありがたかったとおっしゃっていました。また、3人のお子さんたちのうち、2人が赤痢にかかってしまいましたが、医師の処置・薬の処方のおかげで2日で元気になったということで、「教育の大切さ」を訴えておられました。

(8) お子さんが6歳の時に日本に來られて福島県で暮らすことになりましたが、教育委員会から就学を勧める手紙が届いたそうです。マリーさんは、このことに非常に感銘を受けていました。自分の力で文字が読め、計算ができ、ものを考えられるという「基礎的な教育」を受けられる学校に入学できるという知らせがすべての人に届くことに感激していました。ルワンダでは小学校に入学できる子どもが少なく、まして卒業できる子どもはなかなかいないという現状だからです。日本では小学校と中学校を合わせると9年間も学校で勉強できる、これほどありがたいことはないとおっしゃっていました。

(9) マリーさんの言葉をお借りすると、「これは日本の先祖からの宝物である」ということになります。戦争時には、今日一日無事に生きられるだろうか・夜になるのが怖いという状態で生きなければならないのだから、家族そろって平和に夜寝られるという幸せを日本人はもっと味わっていただきたい。湯船に入って身体を温め、安心して寝床に就ける、こんな宝物は他にはない。平和だからこそ安心して眠れるのだ。明日まで生きられるだろうかとおびえずに生活できる日本で教育を受けられる幸せを、日本人はもっと味わいながらいつまでも平和に暮らしていただきたい、勉強していただきたい。このようなこともおっしゃっていました。

(10) マリーさんのお話は、毎日平和に暮らせることを理解したり感じたりすることの大切さ、日本に生まれてよかったと先祖や両親に感謝することの大切さを次の世代に受け継がなければならないと、私たちに教えて下さいました。本当に素晴らしいお話でした。

### 3. おわりに

激しい紛争の中でも懸命に生きていらっしゃる方々に思いをはせながら、自分の日々の生活を考えていけば素晴らしい生き方ができるのではないかと思い、マリー・ルイズさんのお話を紹介させていただきました。

#### [コメント]

NHK のラジオ放送を自動車を運転しながら聞いている時に、「マリーさんへのインタビュー」が放送され非常に感銘を受けた。半年後の開倫ユネスコ協会の会合にマリーさんをお招きでき、身につまされる実に素晴らしいお話をお聞きすることができた。基礎教育の大切さを認識しながら日本の国内外に目を向け、その充実にやれることをやること。そう感じた。

- 2009年3月12日 林明夫 -